



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3528S		
科目名	被害者学		
担当教員	西山 智之		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	金 1		
講義室	1502	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (C R) との関連 E1 学識と専門技能 (60%) I1 理解・分析と読解 (20%) I2 量的分析 (10%) I3 情報分析 (10%)</p>		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応 3 発展期～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	<p>伝統的な刑事司法手続の中では、犯罪の被害者はその枠組みの外に置かれてきたが、この半世紀の間に世界的に被害者への関心も高まり、被害者学として確立されるに至っている。日本においても、犯罪被害者への給付金制度の創設に始まり、被害者対策要綱に基づく犯罪被害者に対する保護ないし支援に関する整備が図られた。そして、2000年代以降、刑事手続における参加・意見表明等を認める刑事訴訟法一部改正をはじめ、犯罪被害者保護法、配偶者暴力防止法、ストーカー行為規制法等の諸立法において、被害者保護の強化が行われている。このような日本における被害者の地位・権利に関する制度的な保護の内容とともに、国際的な動向についても概説する。これを通じて、被害者学の現在を知り、将来を展望することが授業の目的である。</p> <p>授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード：刑事司法手続、犯罪被害者等基本法、性犯罪、修復的司法</p>		
授業の趣旨	<p>■副題 犯罪被害者支援の歴史や犯罪被害の実態を知り、現在行われている犯罪被害者支援策を理解した上で、今後、どのような犯罪被害者支援が必要なのか分析し考案する。</p> <p>■授業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 近代以降の刑事司法手続の考え方を理解した上で、なぜ犯罪被害者が枠組みの外に置かれてしまったのかを考え、現在の犯罪被害者支援策について検討・考察を行う能力を高める。 犯罪被害の実態について、調査する能力、分析する能力を修得し、今後、犯罪被害者に対してどのような支援が必要であるのかを考えることができる能力を高める。 		

	<p>・各種の犯罪に対して、どのような犯罪被害者支援策が必要であるのかを考えることができる能力を高める。</p> <p>■授業のポイント</p> <p>本講座では、学問としての被害者学を中心として講義しつつも、犯罪被害者の声（手記）を取り上げるなどして、可能な限り犯罪被害者の置かれた現実に着目した講義とする予定です。この学問を学ぶ上で、現実苦しんでいる人々がいることを意識して学びを深めていただければと思います。</p>						
総合到達目標	<p>【一般目標】</p> <p>今後の犯罪被害者支援のための制度を考案することができるようになるために、刑事司法手続の考え方を理解した上で、犯罪被害者が置かれている状況や犯罪被害の実態を正しく把握し、現在、各機関で行われている犯罪被害者のための制度を分析し、犯罪被害者に必要と思われる政策を提案できる能力を修得する。</p> <p>【個別行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害者学とは何か、被害とは何か、被害者とは誰かを犯罪被害の実態を理解した上で説明することができる。（第1～2回、第4～5回） ・刑事司法手続の考え方を把握した上で、犯罪被害者が置かれた立場について正確に理解し、現在、各機関で行われている犯罪被害者支援策について説明することができる。（第3回、第6～7回） ・各種犯罪の被害者の現状を正しく理解し、分析した上で必要な支援策を提案することができる。（第8回～第12回） ・犯罪被害者に関する新しい考え方や課題について理解し、被害者の今後について問題点を抽出した上で分析し、解決策を提案することができる。（第13回～第15回）。 						
成績評価方法	<p>■以下の方法で総合的に評価します。</p> <p>「授業参加度」として、授業中の質疑応答における発言を重視します。</p> <p>評価割合35% 適用ルーブリック (E1、I1、I2、I3)</p> <p>「授業内提出課題（リアクションペーパー）」として、毎回授業の終わりに授業で学んだことについて記述したものを提出してもらいます。</p> <p>評価割合65% 適用ルーブリック (E1、I1、I2、I3)</p> <p>■(適用ルーブリック-割合)E1 (50%)、I1 (20%)、I2 (10%)、I3 (20%)</p> <p>(フィードバック方法)</p> <p>授業参加度については、発言ごとにその都度、フィードバックを行います。</p> <p>授業内提出課題（リアクションペーパー）については、翌週に講評や質問への回答、解説を行います。</p>						
履修条件	特になし。						
履修上の注意点	受講生の意見を聞く場をできるだけ多く設けます。積極的に参加してください。						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="464 1272 517 1317">回</th> <th data-bbox="517 1272 1489 1317">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="464 1317 517 1854">1</td> <td data-bbox="517 1317 1489 1854"> <p>①授業テーマ ガイダンス、被害者学とは何か</p> <p>②授業概要 ガイダンスの聴講と個別質問への対応により、受講生は、本講座の到達目標、学習計画、授業運営や成績評価方法を想起できるようになると共に、それらを自分のコンピテンズや希望キャリア、学修計画と照らし合わせ、当科目を今期履修するか否かの意思決定ができるようになる(I1)。</p> <p>また、被害者学とは何かについて、被害者学の概要を簡単に説明することにより、受講生は、被害者学とは何かについて大まかに説明することができる (E1)。</p> <p>③予習(120分) シラバスの内容を良く読み、被害者学とは何を取り扱うものなのか、自分で考えてみる。</p> <p>④復習(120分) 講義で配布したレジュメを確認し、被害者学に関心を持てるよう、被害者学の役割について確認し、ノートに300文字程度で列記する。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 1854 517 2159">2</td> <td data-bbox="517 1854 1489 2159"> <p>①授業テーマ 被害とは何か、被害者とは誰か</p> <p>②授業概要 被害者学における「被害」とはどのようなものであるか、そして被害者学における「被害者」とはどのような人のことを指すのかについて解説を行います。受講生は、様々な犯罪情報の中から犯罪被害の現状や犯罪被害者とはどのような人を指すのかについて分析し、説明することができる (I1、I2、I3)。</p> <p>③予習(120分) 犯罪被害の一次被害・二次被害・三次被害とはどのようなものか、調査しノートにそれ</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	<p>①授業テーマ ガイダンス、被害者学とは何か</p> <p>②授業概要 ガイダンスの聴講と個別質問への対応により、受講生は、本講座の到達目標、学習計画、授業運営や成績評価方法を想起できるようになると共に、それらを自分のコンピテンズや希望キャリア、学修計画と照らし合わせ、当科目を今期履修するか否かの意思決定ができるようになる(I1)。</p> <p>また、被害者学とは何かについて、被害者学の概要を簡単に説明することにより、受講生は、被害者学とは何かについて大まかに説明することができる (E1)。</p> <p>③予習(120分) シラバスの内容を良く読み、被害者学とは何を取り扱うものなのか、自分で考えてみる。</p> <p>④復習(120分) 講義で配布したレジュメを確認し、被害者学に関心を持てるよう、被害者学の役割について確認し、ノートに300文字程度で列記する。</p>	2	<p>①授業テーマ 被害とは何か、被害者とは誰か</p> <p>②授業概要 被害者学における「被害」とはどのようなものであるか、そして被害者学における「被害者」とはどのような人のことを指すのかについて解説を行います。受講生は、様々な犯罪情報の中から犯罪被害の現状や犯罪被害者とはどのような人を指すのかについて分析し、説明することができる (I1、I2、I3)。</p> <p>③予習(120分) 犯罪被害の一次被害・二次被害・三次被害とはどのようなものか、調査しノートにそれ</p>
回	内容						
1	<p>①授業テーマ ガイダンス、被害者学とは何か</p> <p>②授業概要 ガイダンスの聴講と個別質問への対応により、受講生は、本講座の到達目標、学習計画、授業運営や成績評価方法を想起できるようになると共に、それらを自分のコンピテンズや希望キャリア、学修計画と照らし合わせ、当科目を今期履修するか否かの意思決定ができるようになる(I1)。</p> <p>また、被害者学とは何かについて、被害者学の概要を簡単に説明することにより、受講生は、被害者学とは何かについて大まかに説明することができる (E1)。</p> <p>③予習(120分) シラバスの内容を良く読み、被害者学とは何を取り扱うものなのか、自分で考えてみる。</p> <p>④復習(120分) 講義で配布したレジュメを確認し、被害者学に関心を持てるよう、被害者学の役割について確認し、ノートに300文字程度で列記する。</p>						
2	<p>①授業テーマ 被害とは何か、被害者とは誰か</p> <p>②授業概要 被害者学における「被害」とはどのようなものであるか、そして被害者学における「被害者」とはどのような人のことを指すのかについて解説を行います。受講生は、様々な犯罪情報の中から犯罪被害の現状や犯罪被害者とはどのような人を指すのかについて分析し、説明することができる (I1、I2、I3)。</p> <p>③予習(120分) 犯罪被害の一次被害・二次被害・三次被害とはどのようなものか、調査しノートにそれ</p>						

	<p>ぞれ200文字程度で列記してくる。</p> <p>④復習(120分) 被害とは何か、被害者とは誰かについて、ノートに整理しまとめておく。</p>
3	<p>①授業テーマ 刑事司法手続の考え方</p> <p>②授業概要 被害者学を本格的に学ぶための前提知識として、近代以降の刑事司法手続がどのような考え方に基づいて行われているのかを解説します。受講生は、被害者学を学ぶための前提の知識としての刑事司法手続の考え方について説明することができる(E1、I1)。</p> <p>③予習(120分) これまでに履修した法律関係、刑事法関係の授業の復習を行い、場合によっては刑事法の基本書を一読しておく。</p> <p>④復習(120分) 刑事司法手続の流れと考え方をノートに図式化してまとめておく。</p>
4	<p>①授業テーマ 被害者学の歴史</p> <p>②授業概要 我が国だけでなく欧米も含めた被害者学の歴史について、被害者学に影響を与えた事象や事件と共に解説を行います。受講生は、被害者学の歴史について詳細に説明することができる(E1、I1)。</p> <p>③予習(120分) 「被害者学(Victimology)」はいつ頃に誰によって命名されたとされているかを調査し、ノートに記述してくる。</p> <p>④復習(120分) 被害学と被害者支援の大まかな歴史についての年表をノートに作成しておく。</p>
5	<p>①授業テーマ 犯罪統計と犯罪被害者</p> <p>②授業概要 まず我が国の犯罪統計について解説を行い、次に暗数について説明を行います。そこから暗数を知るための犯罪被害実態(暗数)調査について方法も含めて解説し、被害を訴え出ることができない犯罪被害者についてお話しします。受講生は、犯罪統計の基礎と訴え出ることができない犯罪被害者(暗数)の存在について理解し、説明することができる(E1、I1、I2、I3)。</p> <p>③予習(120分) 法務省Webサイトの犯罪白書(最新のもの)にアクセスし、我が国の犯罪情勢について調査を行ってくる。犯罪白書 (https://www.moj.go.jp/housouken/housou_hakusho2.html)</p> <p>④復習(120分) 暗数とは何かについて、暗数が生じる理由と共にノートに記述しておく。</p>
6	<p>①授業テーマ 犯罪被害者支援制度I(法律の制定、警察段階、検察段階)</p> <p>②授業概要 犯罪被害者等基本法などの犯罪被害者を支援する法律の解説を行った後、警察段階・検察段階における犯罪被害者の保護・支援策について具体的な制度を紹介しながら、解説を行います。受講生は、現在の、犯罪被害者を支援する法律、警察段階・検察段階の犯罪被害者支援策について具体的に説明することができる(E1、I1、I3)。</p> <p>③予習(120分) 警察庁の犯罪被害者等施策のWebサイトにアクセスし、どのようなことが書かれているか良く読んでおく。警察庁犯罪被害者等施策Webサイト https://www.npa.go.jp/hanzaihigai/</p> <p>④復習(120分) 警察段階・検察段階の犯罪被害者支援策について、図式化してノートに記述しておく。</p>
7	<p>①授業テーマ 犯罪被害者支援制度II(裁判断階、矯正段階、更生保護段階、自治体)</p> <p>②授業概要 裁判所における犯罪被害者のための施策の他、刑事施設や保護観察における犯罪被害者のための制度について解説を行います。また自治体レベルで行っている犯罪被害者支援策についても紹介します。受講生は、現在の、裁判断階、矯正段階、更生保護段階そして自治体における犯罪被害者支援策について具体的に説明することができる(E1、I1、I3)。</p> <p>③予習(120分) 裁判所の犯罪被害者保護施策のWebサイトにアクセスし、どのようなことが書かれているか良く読んでおく。裁判所の犯罪被害者保護施策Webサイト</p>

	<p>https://www.courts.go.jp/about/hogosisaku/index.html</p> <p>④復習(120分) 警察段階・検察段階の施策に続けて、ノートに裁判段階、矯正段階、更生保護段階の犯罪被害者支援策について図式化して記述しておく。</p>
8	<p>①授業テーマ 犯罪被害者の支援のために必要なこと</p> <p>②授業概要 犯罪被害者は何を求めているのか、犯罪被害者支援には何が必要なのかについて、受講生と共に考えます。この回では、他の回以上に受講生の皆さんから意見を求めたり、場合によってはグループワークを行ってまいります。受講生は、これまでの授業で学んだ犯罪被害者支援について整理し、今後の犯罪被害者支援のためには何が必要であるのかについて考察し、発表することができる(E1、I1、I2、I3)。</p> <p>③予習(120分) 第1回～第7回までの資料やノートを全て見直し、これからの犯罪被害者支援には何が必要なのかについて考えて、ノートに列記してくる。</p> <p>④復習(120分) 授業で話し合った内容について自分でもう一度再検討、整理し、ノートに500文字以内でまとめて記述しておく。</p>
9	<p>①授業テーマ 被害者学各論 性犯罪被害</p> <p>②授業概要 性犯罪の現状や性犯罪に関する議論について説明した後に、性犯罪被害者の特徴や現在行われている性犯罪被害者支援について解説します。受講生は、性犯罪被害の現状について正しく把握し、性犯罪被害者支援のために何が必要であるかについて説明することができる(E1、I1、I3)。</p> <p>③予習(120分) 性犯罪にはどのような種類のものがあるのかを調査し、ノートに列記してくる。</p> <p>④復習(120分) 性犯罪被害者の特徴や必要な支援策について整理し、ノートに500文字程度でまとめて記述しておく。</p>
10	<p>①授業テーマ 被害者学各論 少年事件の被害者</p> <p>②授業概要 少年司法制度について説明した後に、少年が行った犯罪の被害者はどのような対応がなされていたか歴史を振り返りながら見ていきます。そして、現在の少年司法制度における犯罪被害者支援について解説を行います。受講生は、少年事件の被害者について、その歴史的変遷と現在の対応について正しく把握し、少年事件の被害者支援のために何が必要であるかについて説明することができる(E1、I1、I3)。</p> <p>③予習(120分) 少年司法制度の概要について調査し、ノートに図式化してくる。</p> <p>④復習(120分) 少年事件の被害者の特徴や必要な支援策について整理し、ノートに500文字程度でまとめて記述しておく。</p>
11	<p>①授業テーマ 被害者学各論 児童虐待の被害者</p> <p>②授業概要 児童虐待の種類や現状、特徴、原因等について説明した後に、現在行われている児童虐待の被害者への支援策について解説します。受講生は、児童虐待の被害者の現状について正しく把握し、児童虐待の被害者支援のために何が必要であるかについて説明することができる(E1、I1、I3)。</p> <p>③予習(120分) 児童虐待の4類型である身体的虐待・性的虐待・ネグレクト・心理的虐待について、どのような内容か調査し、ノートにそれぞれ200文字程度で記述してくる。</p> <p>④復習(120分) 児童虐待の被害者の現状や特徴、そして必要な支援策について整理し、ノートに500文字程度でまとめて記述しておく。</p>
12	<p>①授業テーマ 被害者学各論 自然災害時の犯罪被害者</p> <p>②授業概要 自然災害時に避難所等で発生する犯罪の被害者について、どのような現状かを説明した上で、どういった支援や対応策が必要であるかについて解説します。受講生は、自然災害時に発生した犯罪の被害者支援について何が必要であるかを分析し、対応策について説明することができる(E1、I1、I2、I3)。</p>

	<p>③予習(120分) 自然災害時には、どのような犯罪が発生するのかを、新聞のデータベース等を使用し調査を行ってノートに列記してくる。</p> <p>④復習(120分) 自然災害時に避難所等で発生する犯罪の被害者に対して、どのような支援が必要であるかを整理し、ノートに500文字程度で記述しておく。</p>
13	<p>①授業テーマ 発展 修復的司法</p> <p>②授業概要 従来の刑事司法制度の形である応報的司法 (Retributive Justice) に対する考え方として存在する修復的司法 (Restorative Justice) について説明を行います。修復的司法では、加害者・被害者・関係者の話し合いによって解決を図るため、被害者の立場は大変重要となります。受講生は、修復的司法について正しく理解し、修復的司法における被害者の地位について説明することができる (E1、I1、I3)。</p> <p>③予習(120分) 修復的司法とは何かについて、調査しノートに400文字程度で記述してくる。</p> <p>④復習(120分) 修復的司法とは何かについて、整理しノートに300文字程度で記述しておく。</p>
14	<p>①授業テーマ 発展 加害者家族の被害者性</p> <p>②授業概要 犯罪加害者の家族は非難される対象となりやすいですが、犯罪加害者の家族も犯罪の被害者とみることができます。この犯罪加害者の家族が、具体的な事件の資料を元にどのような状況にあるのかについて説明します。受講生は、犯罪加害者の家族の被害者性について正しく理解し、説明することができる。(E1、I1、I3)</p> <p>③予習(120分) 犯罪加害者家族の被害者性について、どのような状況になるのかを考え、ノートに200文字程度で記述してくる。</p> <p>④復習(120分) 犯罪加害者家族が直面する状況についてノートに300文字程度でまとめて記述しておく。</p>
15	<p>①授業テーマ 授業総括、まとめ、被害者学の今後の展望</p> <p>②授業概要 それまでの授業の総括として、被害者学の振り返りを行い、被害者学の新しい課題や将来の展望について解説を行います。受講生は、被害者学のまとめを行い、被害者学の今後の展望について説明することができる (E1、I1、I2、I3)。</p> <p>③予習(120分) 被害者学で得たものについて、ノートに600文字程度で記述してくる。</p> <p>④復習(120分) 被害者学で修得したものを社会に出た際に役立てることができるように、ノートに列記し心に刻んでおく。</p>
関連科目	警察行政 (RMGT3525S)、犯罪と捜査 (RMGT3527S) 刑事司法手続 I (RMGT3421)、刑事司法手続 II (RMGT3422S)
教科書	教科書は使用せず、毎回、講義のための資料を配付します。
参考書・参考URL	諸澤英道『新版被害者学入門』(成文堂、1998年) 警察政策学会 編『社会安全政策論』(警察政策学会、2018年) 警察庁「犯罪被害者白書」 https://www.npa.go.jp/hanzaihigai/whitepaper/top.html 公益社団法人 全国被害者支援ネットワークWebサイト https://www.nnvs.org/
連絡先・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ■連絡先：開講時にお伝えします。 ■オフィスアワー：開講時にお伝えします。
研究比率	<ul style="list-style-type: none"> ■危機管理領域との対応 災害マネジメント10%；パブリックセキュリティ60%；グローバルセキュリティ20%；情報セキュリティ10% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理学40%；法学60%



